

親族ケアを受けている子供らの健康状態と幸福感は、 里親によるケアを受けている子供よりも良い



**親族ケアの子供は、里親ケアの
子供よりも行動面・精神面とも
に状態が良い**

このレビューの目的は？

このキャンベル系統的レビューは、虐待のために自宅から離させられざるを得なかった子供たちの安全性・安定感、および幸福感などにおいて親族ケアが里親ケアよりも効果的であるかどうかを検討する。このレビューは、666,615人の子供を含む102の研究からの所見を要約している。これらの研究のうち71件がメタ分析に含まれていた。

親族ケアに託された子供たちの行動面・精神面の状態、および幸福感は、里親や児童保護施設などに託された子供たちのそれよりも良い。親族ケアの子供は、世話になる家や施設のたらいまわしや虐待の経験が少ない。親族が保護者後見人として認められる見込みは、里親ケアに比べて高い。

生みの親の元に戻る割合、託された場所での滞在期間、子供の成績、家族のつながりの強さ、またはどの程度社会支援サービスや医療サービスが利用されたか、親族ケアと里親ケアのどちらにも違いはない。しかし、里親ケアの子どもたちは、精神保健サービスを利用したり、養子縁組になっていくことが多く、よって生みの親が養育に関与することはほとんどない。

このレビューは何を調査したか？

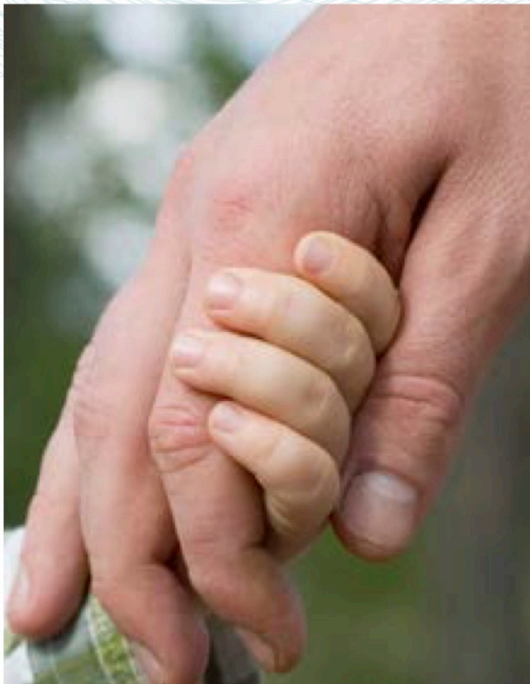
親族ケア - 血縁のある親戚の家へ子供達を託すこと一は、虐待された子供たちが養護施設や血縁のない家庭に引き取られるのに代わって西欧諸国でより増加している。

このレビューでは、虐待のために自宅から離された子供の安全性、永続性、幸福感において、里親ケアと比較した親族ケアの効果を検証する。効果を示す結果には、子供の行動面、精神面、託された場所での安定性と永続性、子供の成績、家族関係、サービス利用率、再虐待などが含まれます。

どんな研究が含まれていたか？

このレビューに含まれている研究は、子供の安全性、安定感、幸福感に関して親族ケアに託された子供のデータと里親ケアに託された子供のデータとを比較する。

このレビューには、108の調査研究が含まれていて、それはすべて対照実験か擬似実験である。米国によるものが89件、残りがスペイン、オランダ、ノルウェー、アイルランド、イギリス、イスラエル、スウェーデン、オーストラリアによるものである。



このレビューはどれくらい最新のものか？

このレビューには、2007年3月から2011年3月までに出版された調査が含まれており、2014年3月3日に発行された。

キャンベルコラボレーションとは何か？

キャンベルコラボレーションとは、体系的なレビューを出版する、国際的、自発的、非営利の研究ネットワークである。私たちは、社会科学および行動科学のプログラムに関して、それらがどれだけ立証できるかその質を評価したり、要約をおこなったりしている。私たちの目標は、人々がより良い選択をしたり、より良い政策決定を促進することである。

この要約について

この要約は、Marc Winokur, Amy Holtan, Keri E. Batchelder (DOI 10.4073 / csr. 2014.2) 著、Campbell Systematic Review 2014 : 2 "Kinship Care for the Safety, Permanency, and Well Being of Children Removed from the Home for Maltreatment: A Systematic Review" 「虐待のために家から離された子どもの安全性、安定感、幸福感のための親族ケア: 体系的レビュー」に基づいて、Bianca Albers (Evidence and Implementation Center, Save the Children Australia) によって書かれた。Anne Mellbye (R-BUP) は、要約をデザインし、Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration) が編集した。



虐待のために自宅から離されざるを得なかった子供の安全性、安定性、幸福感を確保するには、親族のケアのほうが里親ケアよりも効果的か？

親族ケアの子供は、里親ケアの子供よりも行動面や精神面の状態が優れている。つまり、内向化または外面化した問題行動が少なく、行動も適応し、精神障害が少なく、感情面も良好である。彼らはまた、託された場所でより安定し永続的な生活が経験でき、里親ケアの子供よりも組織的虐待を受けにくい。また、親族に後見人の資格が与えられる機会は、里親の場合よりも親族ケアの子供の方が多い。

里親ケアの子供は親族ケアの児童よりも養子縁組される可能性が高く、親族ケアの児童よりも精神保健サービスを活用する程度が多い。

精神保健サービス以外の他の公共サービス（すなわち、障害ある人へ支援をするサービスや医師による支援サービス）を利用する割合、子供の成績、生みの親の元に戻る割合、また家族との関係や愛着の強さなどに、親族ケア、里親ケア両方のこどもたちに違いはなかった。

研究結果の一部は、状況によるが里親ケアに比べ親族ケアの子供たちには支援が少なくて済むことがとりわけわかっている。永久的な親族ケア・里親ケアにかかわらず、養子縁組か生みの親の元に戻ることが好ましい最終目標である。

このレビューからわかったことが意味することは？

親族ケアは、虐待のために家から離されざるを得ない子供にとって適した選択肢である。しかし、親族ケアにまつわるケースワーカーの関与とサービス提供の必要性が増加し、かかる費用の対策をする政策上の問題が残されている。

これらに含まれる調査研究にはかなりの数の研究がその方法論とデザインに脆弱性を示した。親族ケアの効果については、しっかりした長期的な研究デザインと心理測定器のデータに基づいた、より質の高い定量的研究を行う必要がある。